

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年6月12日現在

機関番号：21401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520167

研究課題名（和文） 新資料による小牧近江研究

研究課題名（英文） A Study of Omi Komaki with New Material

研究代表者

高橋 秀晴 (TAKAHASHI HIDEHARU)

公立大学法人秋田県立大学・総合科学教育研究センター・教授

研究者番号：40310982

研究成果の概要（和文）：

2007年10月31日に秋田県に寄託された小牧近江資料約20000点を用いて、小牧の執筆意識や推敲過程について考察した。また、プロレタリア文学系作家群及び鎌倉文士群からの書簡の分析を通じて小牧との交流状況を明らかにし、妻福子、長男左馬介との往復書簡によって、私人としての小牧を立体化した。他方、ハノイやパリを現地調査し、文献上得られていた知見を確認したり、新たに特定することに成功した。以上により小牧の全体像を明らかにし、その結果を、論文、口頭発表、書籍等という形で公表した。

研究成果の概要（英文）：

With over 20,000 documents of Omi Komaki's that were donated from his family to Akita prefecture, I examined the intention and process of polishing over his work. Besides, I clarified the social life and his personal portrait by analyzing his correspondance with proletarian school, the writer's group of Kamakura as well as his wife Fukuko, and his son Samanosuke. Also, further literature information or new findings on this subject were able to be verified, through my investigations in Hanoi, Paris. These results were made public as essays, conference presentations, and publishings.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	500.000	150.000	650.000
2009年度	500.000	150.000	650.000
2010年度	500.000	150.000	650.000
2011年度	500.000	150.000	650.000
年度			
総計	2000.000	600.000	2600.000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：日本近現代文学 プロレタリア文学 「種蒔く人」 小牧近江 金子洋文 今野賢三

### 1. 研究開始当初の背景

プロレタリア文学の嚆矢とされ一つのエポックを画した雑誌『種蒔く人』の研究・顕彰活動が活発化したのは1990年代の後半からである。きっかけは、1998年度日本社会文学会秋季研究大会（秋田大会、1998年10月24日、25日）であった。中心企画であるシンポジウム『種蒔く人と現代』では、『種蒔く人』を歴史的に位置付けつつその現代性を照射した。

3年後の2001年10月13日、秋田市土崎において「種蒔く人80周年の集い」（『種蒔く人』顕彰会、『種蒔く人』『文芸戦線』を読む会）主催）が開催された。全国各地から約170人が参加し、反戦・平和を提唱した「種蒔く人」運動を巡る活発な議論が展開された。

この「種蒔く人80周年の集い」を一つの契機として、文学資料の散逸を危惧する声が高まり、それを受ける形で「秋田の文学資料調査収集委員会」が発足（2002年6月）する。秋田県生涯学習課の要請に応え、小牧近江の長女桐山清井氏（2006年3月没）は、小牧近江関係資料2044点を県に寄託。以後、伊藤永之介関係資料（2003年9月寄贈）等が続々と集まり、2006年4月には「あきた文学資料館」（秋田県立図書館分館）がオープンする運びとなった。

### 2. 研究の目的

雑誌『種蒔く人』（1921年～1923年）を創刊したことで知られる小牧近江（1894年～1978年）の全遺品が、2007年度中に秋田県に寄託（調印式は2007年10月31日、於鎌倉の遺族宅）されることとなった。この寄託によって「種蒔く人」、「文芸戦線」、ひいては日本プロレタリア文学運動に関する研究が飛躍的に進展することは間違いない。本研究は、初めて目の目を見る膨大な資料群によって、日本近代文学史の一部分を補うことを構想しつつ、思想家、労働運動家、研究者等多くの顔を持つ小牧近江の全体像を明らかにすることを目的とする。

### 3. 研究の方法

約20000点の資料があるため、リスト作成と分析・考察とを同時進行で進めた。混乱を避けるべく、原則として時系列に添って、整理・考察した。主たる項目としては、原稿、書簡、写真、スクラップ、パンフレット、チラシ、原書等が挙げられるが、時期毎にまとめながら作業を進めた。

資料の寄託先であるあきた文学資料館（秋田県立図書館別館）と勤務先である秋田県立大学との間で連携関係を結び、大学で資料を預かって日常的研究活動が可能となるよう手配した。このことによって院生や学生を使っている整理作業が可能になり効率が大幅にアップしたと同時に、教育効果も上がった。

### 4. 研究成果

平成20年度は、新規寄託の小牧近江書簡中、特に重要なものを翻刻しその意義について考察した。小牧と福子夫人の結婚前後の書簡には、生涯続いた夫婦愛の原点を見ることができる。また、雑誌「種蒔く人」同人の金子洋文、今野賢三をはじめ、鷲尾よし子、むのたけじらからの書簡は、小牧がいかに生れ故郷である秋田県との繋がりを大切にしていたかを物語っている。一方、堀口大学からのフィリップ訳書の寄贈に対する礼状には「ゆくゆくは全集を御出版の由」とあって、小牧の（実現しなかった）構想の一端が窺える。他に、小林多喜二からの寄稿依頼の葉書、江戸川乱歩の協力要請のエア・メール、「パリ燃ゆ」の執筆に小牧が協力していたことを証明する大仏次郎書簡等、文学史的に貴重な書簡を多数発見することができた。

平成21年度は、パリ在住時代の状況について調査を進めた。新資料である1918年10月11日付近江晋作宛書簡は、ドイツ軍の攻撃を受けるパリの様子が克明に記載された貴重なものであった。それについての小牧の感想も、後の反戦平和思想の原点と見なし得るという意味で重要である。また、画家の藤田嗣治との関係についても調査、ラ・ベル・エディション社から刊行された『詩数編』（小牧の詩と藤田のデッサン12点とを組み合わせた冊子）の背景について明らかにした。

平成 22 年度は、仏領インドシナ史の概略を捉えた上で、この時期の小牧の詳細な年譜を作成した。その際、新規寄託資料によって、小牧が日本文化会館に就職したのが 1944 年ではなく 1943 年 11 月 1 日であったこと、またハノイ事務所長となったのが 1944 年ではなく 1945 年 6 月 5 日であったこと等、多くの新事実が判明した。また、寄託資料にあったスクラップや遺族・親族の証言により、ベトナムの八月革命の状況およびベトナム人との交情の様子等を明らかにすることができた。

平成 23 年度は、小牧の著書、スクラップ、書簡と、評論家で仏文学者である小松清の半自伝小説『ヴェトナムの血』（河出書房、1954 年）および仏領インドシナ史関係資料との照合作業を通じて、1945 年前後のベトナムの状況や仏越和平交渉の実際について考察した。その結果、小牧が華僑、ゲン・ツンタムのような中国亡命派の大物等との人脈を背景にしつつ、フランス人とベトナム人の双方と信頼関係を築いていた日本人という独自の立場から仏越の関係を結ぶべく奔走したことが明らかとなった。

平成 24 年度は、小牧のパリ時代に関する現地調査を行った。彼が頻繁に出入りしていた場所（アンリ 4 世校、パリ法科大学、オデオン通り、サン・プリ家）について、小牧の自伝『ある現代史』および先行研究と照合しつつ調査した。その結果、小牧にシャルル・ルイ・フィリップを読むよう勧めたマダム・ムニエが経営していた書店跡を特定するなどの成果を得た。また、盟友金子洋文との書簡を調査し、二人の関係の実際について確認した。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 5 件）

- ① 高橋秀晴、「東北とプロレタリア文学—秋田県の場合を例として—」、『文学と格差社会—樋口一葉から中上健次まで』、44—45、2012 年、査読なし
- ② 高橋秀晴、「小牧近江書簡資料の実際」、『社会文学』、第 35 号、33—42、2012 年、査読あり
- ③ 高橋秀晴、「ハノイにのこせ人のあと—小牧近江と小松清—」、『秋田文学』、第 4 次第 20 号、67—74、2011 年、査読なし
- ④ 高橋秀晴、「未発表書簡が語る小牧近江の新側面」、『秋田文学』、第 4 次第 18 号、68—78、2009 年、査読なし
- ⑤ 高橋秀晴、「小牧近江と環「日本海」—新規寄託資料の可能性を遠望しつつ—」、

『社会文学』、第 29 号、117—126、2009 年、査読あり

〔学会発表〕（計 5 件）

- ① 高橋秀晴、「小牧近江寄託資料の意義」、『種蒔く人』創刊 90 周年記念事業、2011 年 10 月 8 日、カレッジプラザ
- ② 高橋秀晴、「小牧近江と仏越和平交渉—交錯するフランス・ベトナム・中国—」、日本社会文学会秋季北京大会／中国社会科学院日本研究所学術シンポジウム、2011 年 9 月 18 日、中国社会科学院日本研究所
- ③ 高橋秀晴、「小牧近江と終戦」、秋田風土文学会、2011 年 2 月 11 日、あきた文学資料館
- ④ 高橋秀晴、「小牧近江とパリ」、秋田風土文学会、2010 年 2 月 11 日、あきた文学資料館
- ⑤ 桐山香苗、大地進、高橋秀晴、佐々木久春、「種蒔く人」を支えた人」、日本比較文学会東北支部、2008 年 11 月 29 日、あきた文学資料館

〔図書〕（計 4 件）

- ① 日本近代文学会東北支部編（共編著）、勉誠出版、『東北近代文学事典』、2013 年
- ② 佐々木久春、高橋秀晴、三浦基（他 5 名、2 番目）編、無明舎出版、『改訂 秋田—一ふるさとの文学』、2011 年、全 167 頁
- ③ 佐々木久春、高橋秀晴、三浦基（他 5 名、2 番目）編、無明舎出版、『秋田—ふるさとの文学』、2010 年、全 156 頁
- ④ 高橋秀晴、秋田魁新報社、『秋田近代小説／そぞろ歩き』、2010 年、全 177 頁

〔その他〕

新聞報道

- ① 「秋彩人／「読者と一体」に先進性／格差社会への示唆に富む内容」『朝日新聞』2011 年 10 月 31 日
- ② 「戦争を拒む国際連帯／「種蒔く人」創刊 90 周年の集い」に寄せて下」『秋田魁新報』2011 年 10 月 7 日
- ③ 「斬新な発表に期待／「種蒔く人」創刊 90 周年の集い」に寄せて上」『秋田魁新報』、2011 年 10 月 6 日
- ④ 「「種蒔く人」創刊 90 周年の集い」『読売新聞』2011 年 10 月 4 日
- ⑤ 「プロレタリア文学の先駆け「種蒔く人」」『河北新報』2011 年 10 月 4 日
- ⑥ 「「種蒔く人」の思想、時代背景学ぶ／創刊 90 周年記念講座」『秋田魁新報』2011 年 9 月 3 日

- ⑦ 「秋田市で日本比較文学会東北大会／小牧近江の世界紹介／桐山さん祖父の思い出語る」『秋田魁新報』2008年11月30日
- ⑧ 「月曜論壇／「種蒔く人」と桐山さん」『秋田魁新報』2008年11月24日

ホームページ等

<http://www.akita-pu.ac.jp/stic/souran/scholar/detail.php?id=111>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 秀晴 (TAKAHASHI HIDEHARU)  
公立大学法人秋田県立大学・総合科学教育研究センター・教授

研究者番号：40310982